

# ノロウイルス集団感染 予防は先手の感染対策で！

感染管理推進室主査  
感染管理認定看護師  
石角 鈴華



毎年、秋から冬にかけて、ノロウイルスによる院内感染の防止が重要となります。  
今回、市立札幌病院の取り組みの一例をご紹介します。

ノロウイルス対策のポイントには、職員教育、発症者の早期発見、報告体制、手指衛生と防護具の適切な使用、感染者の個室隔離の5つがありますが、中でも重要なのは事前の職員教育です。吐物や下痢便を処理する際には、周囲環境に汚染を拡げないように処理すること、処理する職員自身がウイルスに曝露することのないようにすることがとても大切ですが、そのためには職員一人一人が、標準予防策に基づいて、確実に手指衛生を行い、適切に防護具を使えなくてはなりません。

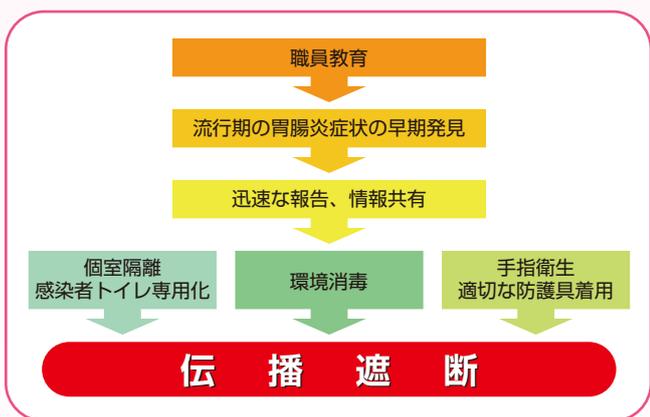


図1 ノロウイルス対策5つのポイント

ノロウイルス集団感染の初発患者の発症時には、その症状がノロウイルス感染によるものか明らかではありません。つまり、病院の職員は、よくわからない状況で吐物や下痢便を処理することになります。そしてこの時の感染対策の破綻によって、排泄物を処理した職員が感染し、ノロウイルスが病院内に拡がってしまう…というパターンはよくあるものです。つまり、普段の標準予防策がどれだけ実践できているかが、集団感染防止の鍵となるのです。しかし、これは簡単なようで大変難しいことでもあります。



図2 光る！ニセモノの嘔吐物

市立札幌病院では、ノロウイルスの流行が始まってから職員が手洗いや防護具の使い方を練習するのではありません。毎年の10月に嘔吐物処理方法の実技訓練を行っています。実技訓練では、ブラックライトで光る蛍光塗料でニセモノの嘔吐物を作り、職員が防護具を着用してそれを処理します（図2）。処理後にブラックライトを当てて、環境の拭き残しがないか、防護具をはずした後の手や白衣が汚染していないかを目で確認します。この実技訓練を行うことで、忘れていた感染対策の手技が確認でき、職員の中に「そろそろ、ノロの季節が来るナァ〜」という実感が湧くようです。（図3）今年10月19日（水）にこの「ノロウイルス対策・実技講習会」を予定しています。近隣の医療施設でご興味のある方は、ぜひご参加ください。



図3 院内職員、実技訓練中！

## 市立札幌病院 ICTセミナーのご案内 ノロウイルス対策・実技講習会

日時：10月19日（水）

17：30～18：30

場所：市立札幌病院 2F講堂

事前申し込みは不要です。